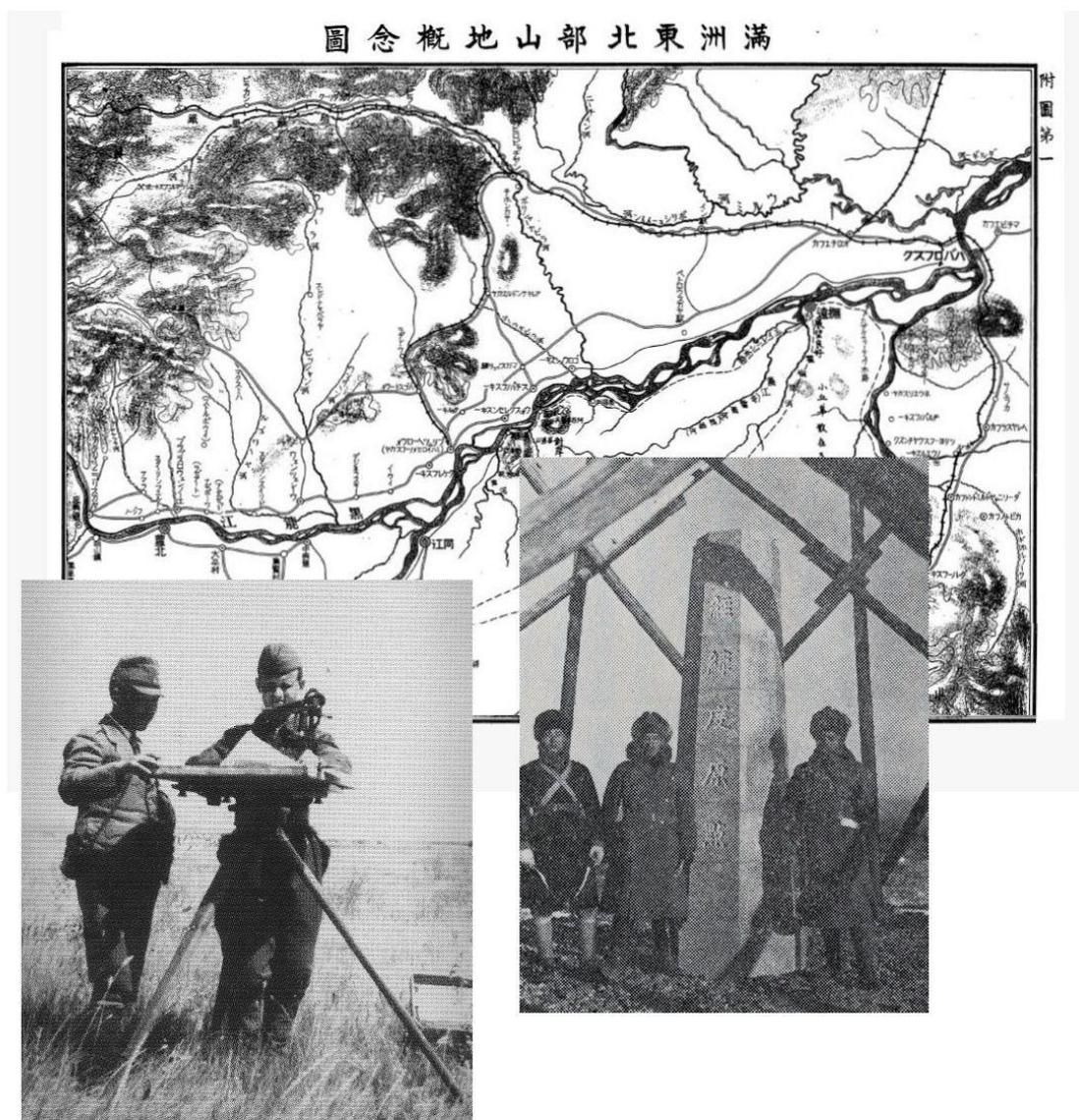


『地図作りを支えた技術者たちの道』

－測量・地図 150/2 年史－

『 地図作り を支えた技術者たちの道』

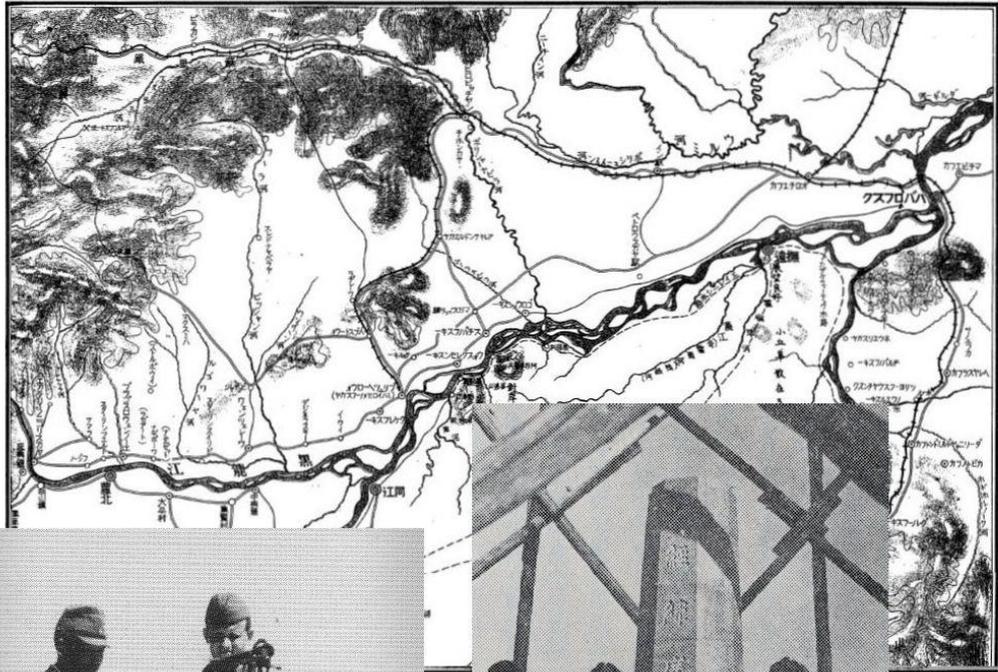
— 測量・地図 150/2 年史 —



山岡光治 Mitsuharu Yamaoka

オフィス 地図豆

滿洲東北部山地概圖



山岡光治 Mitsuharu Yamaoka

オフィス 地図豆

『地図作りを支えた技術者たちの道』

－測量・地図 150/2 年史－

山岡 光治 Mitsuharu Yamaoka

オフィス 地図豆

カバー図版について

- ・ 1/100 万「満州東北部山地概念図」（部分を一部編集）
（「満州東北部（三江省）兵要地誌」昭和 13 年 5 月参謀本部調製、JACAR Ref. C14021026000、満洲東北部（三江省地方）兵要地誌概説 昭和 13. 5. 30（防衛省防衛研究所））
- ・ 満豪国境画定測量の風景 『満豪国境画定記念写真帖』
満豪現地国境確定混成委員会 満州帝国代表部
- ・ 新京・南嶺の経緯度原点 『地図をつくる 陸軍測量隊秘話』岡田善雄編

◆ もくじ

はじめに	1
第1章 お雇い外国人に学ぶ日本人測量・地図技術者たち	3
第1節 イギリス人灯台築造技術者ブラントンを始まりとして				4
・明治新政府、測量・地図管轄組織の誕生				
・イギリス人灯台築造技術者ブラントんとマクヴィーンを招へい				
・イギリスで学んだ山尾庸三、工学頭兼測量正となる				
・マクヴェーン工部省測量司長となる				
・内務省地理寮で技術力を発揮するシャーボー				
☆お雇い外国人技術者の給与				
第2節 アメリカ人測量師長ワッソン、デイから学ぶ開拓使測量技術者たち				14
・開拓使などへ向かう、沼津兵学校の技術者たち				
・ワッソン、デイと開拓使測量				
・開拓使の地形図作成				
・開拓使の三角測量事業に従事する日本人技術者				
☆目賀田種太郎が進める地籍調査				
☆組織変遷の中で活躍の場を求め続ける測量技術者と測量機器				
第3節 アメリカ人ライマン、ドイツ人シュットらから学ぶ地質技術者たち				28
・地質学者ライマンに学ぶ「地質測量生徒」たち				
・技術者シュットから土性図とその土台となる地形図作成を地質技術者たち				
第4節 イギリス人技術者イングラッド、ダイアックから学ぶ鉄道技術者たち				33
・イングラッド、ダイアックから鉄道測量を学ぶ				
・福田半（治軒）と順天求合社・時習義塾				
第5節 オランダ人から学ぶ河川測量、イギリス人から学ぶ水路測量				36
・ドールン、リンドなどと河川港湾測量				
・セントジョンから学ぶ初期の水路測量				
☆セントジョン艦長が目にしたイギリス海軍士官 レキの墓				
・お雇い外国人排斥を声高にする日本人技術者たち				

第2章 兵部省・民部省などの測量・地図事業（明治初年から明治7年） 47

第1節 地理偵察の兵部省と地租改正に対応する民部省 48

- ・「地図政誌ヲ編輯シ並ニ間諜通報等ノ事ヲ掌ル」兵部省
- ・「郡国ノ地図・戸口・名簿ヲ詳細ニシ兼テ租税ノ多寡ヲ知ル」民部省
- ・官林経営する民部省

第2節 工部省測量と測量技術者教育 53

- ・「工業ノ為メ海陸ヲ測量スル」工部省測量司
- ・測量機器の整備を進める工部省測量司
- ・灯台寮、横浜灯明台役所に併設した修技学舎で灯台技術者を養成
- ・工部省測量司、技術通学校で修技生を募り測量教育を開始
- ・工部省鉄道寮、(大阪)工技生養成所を起し鉄道技術者養成に着手
- ・その他の測量・地図技術者教育と明治初期の測量関係留学者たち

第3章 全国三角測量を目指す内務省の測量・地図事業（明治7年から明治17年） 67

第1節 初期内務省での測量・地図 68

- ・陸地測量師館潔彦と「三拾三年乃夢 日本測量野史稿」
- ・「玉座ノ御椽」から始まった東京府下三角測量
- ・人も業務も工部省から内務省へ
- ・その後の東京府下三角測量
 - ☆庶民には大いに迷惑であった基線測量
 - ☆「標旗（測旗）」と「測標（測量櫓・測量標）」
- ・地理寮ニ於テ東京府下実測図ヲ版刻ス」
- ・伊能源六から「伊能図」を借りる

第2節 内務省測量の地方への展開 82

- ・三角測量の主要都市と五港・六鎮台への展開
- ・各地に展開した内務省三角測量の標石
- ・「綱紀高低測量」と几号水準点
- ・各地に設置される几号水準点
- ・「外国人遊歩規程測量」と「国界測量」
- ・塚本明毅と「皇国地誌」の編纂
- ・手明き芸員（技術者）を地方へ派遣する
 - ☆英数字を覚える測量手たち

第3節 内務省地理局、全国三角測量に着手	101
・ 関八州大三角測量から全国三角測量へ	
・ 全国三角測量から一等三角測量へ	
第4節 本初子午線の設定と内務省による経緯度測定	105
・ 内務省作成の地図と本初子午線の変遷	
・ 内務省の経緯度測定	
・ 経過観測と経緯度測定	
・ 「測手」という呼び名のことをたどる	
第4章 陸軍省参謀局から参謀本部へ（明治初年から明治10年）	123
第1節 フランス軍事顧問団に学ぶ陸軍と参謀局	124
・ 測量・地図にかかる初期陸軍省組織変遷の概略	
・ フランス軍事顧問団から学ぶ明治初期陸軍	
・ 「地形測量説約」によって明らかになる測図方法	
・ 「最初ノ近世式地図」を作成する	
第2節 欧米技術を吸収する参謀局の地図事業	134
・ 参謀局、地理図誌編輯に着手する	
・ 川上冬崖らによる石版印刷術の習得	
☆陸軍図画教育に指導的役割を果たした川上冬崖	
・ 銅版彫刻・印刷の本格化	
・ 江華島事件から「日朝修好条規」、そして「隣邦地図」と「外邦図」	
・ 「写真手」の登場	
・ 地図印刷をする兵事新聞社（内外兵事新聞局）	
・ 地図図式の初め	
☆ウイーン地図学校に学ぶ銅版技術者 岩橋教章	
・ 福田半・矢島守一、陸軍参謀局に出仕	
☆そのとき福田半（理軒）に学んだ市井の思想家	
・ 「矢島守一等ヲシテ天文観測ニ従事セシメタリ」	
・ 「東京近傍局地図」の作成に着手	
第3節 西南の役の勃発と参謀局の対応	156
・ 西南の役への第五課（地図政誌ノ課）の対応	
・ 西南の役への第六課（測量ノ課）の対応	
・ 西南の役後の人事とその先	

☆「迅速測図」とその手法

☆測量用語を造る

第5章 参謀本部による測量・地図事業（明治11年から明治20年） 169

第1節 「全国地図整備計画」を目指す参謀本部 170

- ・参謀本部、地図課・測量課の発足
 - ☆ロシアに学び、写真電気銅版製版法の研究を進める大岡金太郎と石丸三七郎
- ・小菅智淵、「全国測量一般意見」を具申
 - ☆参謀本部測量課長から初代の陸地測量部長となる小菅智淵
- ・「第一軍(師)管迅速測図」測量への着手
- ・フランス式の彩色地図となった「第一軍(師)管迅速測図」(原図)
- ・大地測量事業重視から始まる測量技術者教育

第2節 フランス派を一掃する参謀本部 185

- ・清国外交官への地図密売事件（地図機密漏洩事件）
- ・清国・朝鮮地図の作成と堀本工兵中尉の刺殺

第3節 ドイツ方式大地測量の開始 192

- ・陸軍参謀本部、初の三角測量を東京湾口で実施
- ・田坂虎之助帰朝とドイツ方式大地測量の導入
- ・一等三角測量、一等水準測量の開始
 - ☆ドイツ方式三角測量の礎を築いた田坂虎之助
 - ☆基線測量と天文測量で多くの実績を残した矢島守一
- ・二等水準測量の開始

第4節 測量機関の統一 203

- ・「全国地図調製統一之儀ニ付上申」
- ・平面直角座標系の制定
- ・参謀本部測量局の皆既日食観測
 - ☆永明寺山でコロナ写真撮影者に成功した杉山正治

第5節 写真電気銅版法の研究と地図払下げの開始 209

- ・2万分1正式地形図と図式
 - ☆秩父農民に拉致された測量官
- ・メッケルの参謀演習旅行と地図
- ・戦時対応への準備を進める地図課

- ・亜鉛平版・銅版彫刻に着手
- ・写真電気銅版法の研究・導入
 - ☆写真亜鉛製版法を確立した多湖実敏
- ・地図の一般への払い下げと直営印刷の開始

第6章 参謀本部から陸地測量部へ、そして日清戦争へ関与する(明治21年から明治36年) …… 227

第1節 陸軍参謀本部 陸地測量部となる 228

- ・陸地測量部条例の制定
- ・この間の技術者海外留学と修技所の開設
- ・三角測量の進展と陸地測量部条例の制定
- ・日本水準原点の制定と験潮場の開設
- ・経緯度原点の制定
- ・濃尾地震への対応

第2節 「輯製二十万分一図」の完成 243

- ・「富士山模型(富士山像型図)」を天覧に供す
- ・写真亜鉛製版法の研究、そして地図用紙製造を大蔵省印刷局に委託
- ・陸軍大演習へ写真手・印刷手を派遣

第3節 日清戦争へ関与する 249

- ・「征韓論」から日清戦争へ(27・28年戦役)
- ・(第一次)臨時測図部の編成する
- ・日清戦争(27・28年戦役)に対応する順天求合社
- ・イザベラ・バードの見た地図と測量
- ・攻玉社と工手学校
 - ☆攻玉社の設立者 近藤真琴
- ・第一次臨時測図部の測量・測図法
- ・「無分度式」「分度式」と日清戦争への製図科の対応
- ・日清・日露戦争と従軍写真班
 - ☆日本で最初の3色版印刷物「薔薇花」で知られる 小倉俊司
 - ☆田山花袋と従軍写真班
- ・残置を命じられる臨時測図班
- ・詮衡により測量師・測量手へ任用される
 - ☆児童文学者竹貫直次が語る臨時測図部の秘密測量
- ・『外邦測量沿革史 草稿』と『外邦兵要地図整備誌』

第4節 台湾へ、朝鮮へと向かう陸地測量師 279

- ・台湾「新高山」を測る
- ・台湾・韓国土地調査事業などを支援する
 - ☆韓国（朝鮮）土地調査、林野調査などに従事する豊田四郎

第5節 日清戦争後も外地対応の影響を受ける地形科と製図科 286

- ・この間の三角科の業務
 - ☆冠字のこと
 - ☆三角点名のこと
 - ☆測量標石を小豆島産花崗岩へ統一
- ・日清戦争、そして北清事変に対応する地形科と製図科
- ・「秘密図取扱規程」の制定
- ・参謀本部活版印刷事業を担当する
- ・進む簡易測量機器の開発
- ・部内研究誌『三五會誌』の発刊
 - ☆陸地測量部研究三誌の編集責任者 川北朝鄰

第7章 日露戦争への関与から、初の国境測量に対応する（明治37年から明治45年）…………… 313

第1節 第二次臨時測図部の編成と行動 314

- ・大山参謀総長「地図取扱ニ関スル訓示」ス
- ・第二次臨時測図部編成の下命あり
- ・第二次臨時測図部の組織構成
- ・部内全員に、皇太子殿下・両陛下より酒撰が下賜される
- ・「臨時測図部服務規則」が制定され、臨時測図部は参謀本部の下へ
- ・第二次臨時測図部の測図測量
- ・清国駐屯軍司令部が担う秘密測量
- ・少数精鋭部員による秘密測量
- ・日清・日露戦争時などの外邦測量に登場した測量機器
 - ☆座談会記録などに見る臨時測図部
 - ☆在外軍人軍属家族携行ニ関スル件
- ・日露戦争における写真班と写景班の活動

第2節 明治後期、平穩時の本土の測量 343

- ・離島の三角測量と中等海水面の決定
- ・北海道の二、三等三角測量に着手
- ・声問基線測量を終える

☆「点の記」について	
☆中国と四国の一等三角網が整合しない	
・回照器の開発と回光信号の制定	
・写真測量芽生え	
☆写真測量の日本初紹介者 中村清二	
・戦時対応印刷に明け暮れる製図科	
第3節 陸地測量部測量師、清国お雇い外国人となる	357
・清国お雇い日本人測量師と清国陸軍留学生	
☆測量技術指導者として活躍する岩永義晴	
☆測絵学堂の測量教官となった土方亀次郎	
・樺太（現サハリン）日露国境画定測量	
☆石川啄木と測量・地図	
第8章 つかの間の平穏から第一次世界大戦への参戦まで（大正元年から大正15年）	371
第1節 「支那駐屯軍土地調査ニ関スル件通牒」発せられる	372
・臨時測図部のこれまで	
・兵要地理調査を開始する	
☆四か国語操る中村茂測量手	
・支那駐屯軍（臨時）土地調査班編成される	
・第一次臨時測図部と臨時第一測図部	
☆暗号と偽名を使用する特別地形偵察者たち	
第2節 第一次世界大戦参戦で拡大する外邦測量	383
・第一次世界大戦への参戦、そして臨時測図班の編成	
・空中写真測量図作成のための臨時三角班編成される	
・蒙古地方測図にも経緯度測量班編成される	
・支那駐屯軍土地調査班による北満地方測量	
・台湾一等三角測量と一等水準測量に着手	
・朝鮮大三角測量と同5万分1地形図の完成	
・陸地測量部、関東都督府へ関わる	
第3節 実行法の制定と日本経緯度原点経度の改正	393
・実行法の制定と修技所教科書の編纂	
・日本経緯度原点経度を改正	
・三鷹菱形基線の初測定と当時使用された測量機器	

- ・地上写真測量の実用化へ向けて
- ・国際会議への関わりと100万分の1万国図「東京（号）」の発行
- ・「大礼記念京都近郊図」と「2万分1東京近郊図」の発行
 - ☆丹那トンネル工事と「測量の神様」

第4節 測量者もシベリア出兵する 409

- ・シベリア出兵に伴い、臨時第一・臨時第二測図部編成される
- ・ロシア極東測量部作成地図の大量鹵獲と日支協同測量
- ・薩哈噠（サガレン）州での外邦測量
- ・浦鹽（ウラジオ）での外邦測量と河野亮之介叙位
- ・支那駐屯軍司令部付測量班（特別派遣員）の懲罰
- ・参謀本部と外務省との確執
- ・陸地測量手大西壽吉第一師団軍法会議ニ拘引セラル
- ・委任統治する南洋諸島などでの地図作成

第5節 関東大地震と震災復旧測量 429

- ・なぜか軍縮の影響を受ける験潮場
- ・関東大地震に伴い、基準点の復旧測量をする
- ・東京全市の空中写真撮影をし、貯金通帳も印刷する
- ・東京・横浜両市の三角・多角測量の委託を受ける
- ・富士山頂の標高を測る

第6節 空中写真測量図化機の導入 437

- ・下志津陸軍飛行学校、空中写真測量にかかわる
- ・第一次世界大戦の賠償品として「空中写真自畫機欧州ヨリ到着セル」
- ・空中写真測量図化機の導入と本格的な研究の開始
 - ☆満州航空 初代写真班長木本氏房のこと
- ・山岳急峻地での小縮尺地上写真測量を研究

第7節 内地五万分の一地形図完了と都市近郊図の発行 446

- ・内地の五万分一地形図の完成
- ・50万分の1與地図の作製と都市近郊図の発行開始
- ・「手抄き地図用紙」から「機の地図用紙」へ
- ・軍事映画撮影への対応
- ・測地学委員会などへの参加と陸地測量師の国内留学
- ・「部内判任官ノ大部連署シテ旅費増額ニ関スル陳情書ヲ提出ス」

第9章 山東出兵から太平洋戦争開戦前夜（昭和元年から昭和16年）…………… 463

第1節 山東出兵、そして野戦測量隊 464

- ・ 陸地測量部練習員と野戦測量隊員の教育
- ・ 「師団編合ニ入ラサル」野戦測量隊

第2節 地上写真測量から空中写真測量へ 468

- ・ 第二次山東出兵と空中写真測量
- ・ 空中写真測量の実用化へ一歩
- ・ 下志津陸軍飛行学校、南樺太北部の空中写真撮影を実施する
- ・ 写真測量研究会、空中写真測量を業務とする
- ・ 地上写真測量による北アルプスなどの急峻地形の修正
- ・ 写真測量、定常業務となって地形科の所掌となる

第3節 満州航空株式会社設立と満州国公然測量 480

- ・ 満州航空株式会社の設立、同社による空中写真測量の始動
- ・ 樺太、台湾、朝鮮、満州の水準原点と経緯度原点
- ・ 未だ活動を続ける特別派遣員による外邦測量

第4節 戦場測量に対応する製図科の研究 488

- ・ オフセット輪転印刷機の整備
- ・ 一般需要を反映した山岳図、スキー用図の発行
- ・ 世情を反映した航空図、演習場図の発行

第5節 自然災害への対応 494

- ・ 「地盤沈下」が認識される
- ・ 相次ぐ地震や火山噴火などの自然災害へ対応する
☆ 寺田寅彦と地図
- ・ 「左傾思想に関する者を出したる件…」

第6節 関東軍測量隊の編成と満州国三角測量の進展 497

- ・ 満州国独立と測量要員の派遣
- ・ 定常業務を削減しても激務が続く各科
- ・ 満州国派遣測量要員による満州測地測量
- ・ 満州国測量局と関東軍測量隊による満州測図測量
- ・ 満蒙満国境確定測量

- ・ノモンハン事件と関東軍野戦測量隊の行動
- ・ノモンハン事件の発端は、昭和 10 年関東軍測量隊員の拉致事件？
- ・測量殉難者と靖国神社への合祀

第 7 節 満州における写真測量の本格始動 518

- ・満州航空写真処によるにおける写真測量の本格始動
- ・充実した器材とする満航写真処の事業展開
- ・関東軍測量隊による写真測量
- ・「力過ぎ」ソ連領を越境撮影
- ・満州航空写真処と中華航空による空中写真撮影
- ・兵要地誌と兵要地誌図の作成
- ・「距離方眼描入要領」の制定

第 8 節 支那事変前後の本土測量 528

- ・日本測地網と満州測地網の不合
- ・戦時対応増で減少する本土の測量
- ・「空中写真測量要図」の作成
- ・各地に広がる「空中写真測量要図」の整備
 - ☆空中写真を撮影して某国に売る、航空業者のスパイ
- ・「陸地測量部防諜規定」の制定と地図の改描
- ・「日本統制地図株式会社」設立される
- ・航空図の進展と「無線方向探知用図」
- ・中縮尺図地形図に羅針方位が挿入される
- ・5 万分の 1 で計測した「全国市町村別面積調」と写真植字機の導入
- ・部内聴講生と委託生への教育

第 10 章 太平洋戦争開戦、そして陸地測量部の終焉(昭和 17 年から昭和 20 年) 553

第 1 節 陸地測量部と関東軍測量隊の組織改編 554

- ・タイ仏印国境画定測量の実施
- ・地図記号にイスラム(回教)寺院登場の意味するところ
- ・戦時に向けた陸地測量部の組織改編
- ・精神要素を涵養することを重視した教育部教育
- ・戦時一色となる陸地測量部
- ・関東軍測量隊、改編されて関東軍測量部となる
 - ☆インドネシア、ジャワ島の経度原点

第2節 満州航空写真処の終焉	565
・満州航空写真処、陸軍の圧力に動じず	
・第一航空写真隊の編成から満州航空写真処の終焉	
・南洋諸島などの地図作成	
・終戦までの外地での測量成果	
第3節 『研究蒐録 地図』の発刊と陸地測量の歌	574
・「外国地名音訳表現ニ関スル規定」の制定	
・『研究蒐録 地図』の発刊	
☆『研究蒐録 地図』の題字と比田井漸のことから地図用文字	
☆地図用文字と隸書	
・堀内敬三による陸地測量の歌	
第4節 国内の測地測量と地図製版等の研究	581
・渡河水準測量と精密方位角観測法実験	
・陸地測量部による地磁気測量の開始	
・半調色図の簡易製版法の開発	
・多色刷地図複製と「写真膜変貼法」の研究	
第5節 地図の統制と「〇タ」作業	586
・「日本地図株式会社」、「(社) 地図研究所」の設立と地図の統制	
・「〇タ」作業」と「陸海作戦用図」の作製	
・「兵要地理調査研究会」と米軍の上陸作戦予測	
第6節 陸地測量部の終焉	592
・度重なる疎開、そして潜水艦で運ばれる図化機	
・「陸軍秘密書類焼却ニ関スル件」通牒される	
・汗と涙で描かれた地図が、満州の空に赤い焰と化して消える	
・焼却・廃棄をまぬがれる地図成果	
・陸地測量部の終焉から地理調査所の発足へ	
第11章 占領下の地理調査所（昭和21年から昭和27年）	607
第1節 GHQによる指令作業の開始	608
・連合軍調査隊による接收	
・波田村から千葉市稲毛（黒砂町）へ	
☆波田村疎開・千葉稲毛移転と格闘する家族たち	

- ・ GHQ による指令作業の開始
- ・ 「プリッキング」と「クラシフィケーション」
- ・ 土地利用図のはじめとなるもの
 - ☆ 指令作業のころ測量者は？

第2節 GHQ による指令作業と技術者教育 620

- ・ GHQ 指令作業のころの技術員養成所と教育
- ・ 米軍第 64 工兵地形大隊、新宿伊勢丹へ
- ・ 米軍第 64 工兵地形大隊、王子キャンプへ
- ・ 米軍による日本全土の空中写真撮影とその公開
- ・ 「兵隊は地形図が読めない」として立体地図をつくる国
- ・ 東京都戦災復興測量と地震災害対応
- ・ カールバンベルヒ製からカールツァイス製、ウイルド製へ

第3節 測量法の制定、国土調査の開始 631

- ・ 「測量法」の制定まで
- ・ 測量法の施行と日本経緯度原点モニュメント
- ・ 国土調査の開始
- ・ 四等三角測量の開始

第4節 全国一等三角網の改測と全国地磁気・重力測量の開始 638

- ・ 全国一等三角網の改測
- ・ 全国地磁気測量の開始
 - ☆ GSI 型磁気儀と地理調査所の組織英名のこと
- ・ 全国重力測量の開始
- ・ 測地学委員会から測地学審議会へ

第5節 指令作業からの脱却 642

- ・ 地形図の作成・維持管理の再開
- ・ ムルチプレックスを「株式会社 航空写真測量所」に貸与

第6節 全土を網羅する小縮尺地図と教育用地図要求に応える 645

- ・ 暫定版 20 万分 1 地勢図と 50 万分 1 地方図の発行
- ・ 日本全図と世界全図の発行
- ・ 『地図帖 日本』の発行

第7節 災害等に伴う各種地理調査と土地利用図の着手 650

- ・ 沖積地調査と災害調査
- ・ 5万分1土地利用図の着手
- ・ 国勢調査と連動した「全国市町村別面積調」
- ・ 写真植字の本格導入
- ・ 地図用紙の品質規格を制定

第12章 国土地理院へ、そして測量機器開発と航測業の発展(昭和28年から昭和35年) …………… 657

第1節 測量審議会と基本測量長期計画 658

- ・ 第一次基本測量長期計画の策定、そして国土地理院となる
 ☆東京移転と国土地理院への改称
- ・ 労働組合の結成と地図普及会のこと

第2節 南極観測隊への参加へ 662

- ・ 各地にひろがる地盤沈下
- ・ 地籍測量の進行と機器開発
- ・ 鹿野山測地観測所の開設と掩蔽観測
- ・ 南極観測隊への参加

第3節 日本の空の解放と中縮尺地図整備の進展 667

- ・ 相次ぐ民間航測会社の設立
- ・ 極東米国陸軍地図局(AMS-FE)の地図作成
- ・ ステレオプラニグラフC8の導入
- ・ 「Xトン」という作業名で作られる2万5千分1地形図
- ・ 「国土基本図事業」の開始
 ☆3級図化機と図化機の区分
- ・ 「5万分1特定地形図(特定5万分1地形図)」の整備
- ・ 批判される「特定5万分1地形図」
- ・ やっと自前の5万分1地形図整備?
- ・ 「昭和30年制定地形図図式」のことから
- ・ ポリエステル樹脂シートの登場とスクライブ製図法の進展

第4節 新しい小縮尺図の作成と各種地理調査の着手 688

- ・ 新「20万分1地勢図」の整備
- ・ 2万5千分1土地利用図と土地分類調査に着手
- ・ 湖沼調査の開始

- ・自然地名の統一の動き

第5節「機械整備10か年計画」と欠図の発生 692

- ・「機械整備10か年計画」
- ・売り上げの増加と欠図の発生

おわりに699

はじめに

明治維新から150年の区切りの年をもうすぐ迎えようとするある日(2014年の夏)、永くしてきた地図作り仕事の締めくくりとして、個人で出来る「測量・地図史」を綴ってみたいと思った。

対象とする日本の近代科学に基づく地図作りの歴史は、この間の事業の大きさ、資料の残存の程度のいずれも「官」のそれが圧倒的であるから、それは必然的に陸地測量部から国土地理院へと連なる官製の測量・地図を主にたどることになる。そして、同組織の始まりのことは、基本資料となる『陸地測量部沿革誌』の明治4(1871)年の項に、「兵部省ニ参謀局ヲ新設セラルルニ当リ、同局ニ間牒隊ト称シ、平時ニ在リテハ地理ノ偵察地図ノ編成ヲ掌ルー機関ヲ設置セラレ……是レ実ニ陸地測量部ノ胚子トス」とあるように、明治4年としている。しかし、その後の業務の変遷を考えるなら民部官に庶務司戸籍地図掛が設置された同2年とすることもできる。

そのようなことで、本書の内容は陸地測量部・国土地理院のする官製測量・地図事業を主としたのだが、歴史記述の始まりについては、前述のことにも係わらず、おおむね明治初年前後とした。それは、日本の近代科学に基づく測量・地図の始まりが、明治政府の発足とおおむね同期しているからに他ならない。

そして、個人のする「測量・地図史」だから、ほかにも勝手な行動が許されるはずだ。本書の内容については、組織とそれがする技術の歴史ではあるが、出来るだけ「地図作りを支えた技術者たちの道」をたどることを意識した。これは、少なからず同じ道を歩んだ、著者のわがままでもある。

このとき参考資料となる『測量・地図百年史』(国土地理院 1970)の記述は、隣国を侵略したに等しい幾多の戦争との関わりを意識的に排除している。前述の『陸地測量部沿革誌』にしても、この点についてはわずかな事実を淡々と記録しているに過ぎない。その中で唯一、『外邦測量沿革史 草稿』だけが、明治・大正期の大陸での非公的な測量などの事実を丹念に報告している。その理由などは、本書の中で紹介するだろう。

そうした資料をベースに、作業を進めようすると、太平洋戦争後のことは資料の散逸も少なく、誰でもが容易にたどり着くことである。そして、個人が手掛けるものとして「150年」はあまりにも長い。そこで、官が記述してこなかったことを意識的に取り上げる内容とし、かつ、測量・地図事業の戦後が終わるまでの「150/2年史」としたのである。

類書は、ほとんど無いといっている。しかも、作業の過程では、個人でできることの限界を常に感じてきた。しかも、本書「『地図作りを支えた技術者たちの道』—測量・地図150/2年史—」の対象とするところは極めて広範だから、踏み込みが足りない部分が多く、その目論見は無謀であったことは重々承知しているし、著者の調査不足、力量不足を読者に指摘される結果になることも覚悟している。

それでも、筆者なりに精一杯挑戦・努力したこの一文を残すことで、後世に少しでも役に立つことがあれば幸いである。

なお、併せて参照・参考文献等の明記などの点で、今後の同類の調査研究に役立つものとなることを心掛けつつ、本書を取りまとめることにした。結果として、ボリュームのことから本書には添付していないが、約 1700 点の「参照・参考文献リスト」のほか、「日本の地図測量年表」「明治初期測量地図組織の変遷」「陸地測量部定員の推移」などを整理した。

*お断り

本書は、多くの報告を引用・収録した内容となっている。許されることではないが、その多くは許諾行為をしていない。そのことの責は著者にある。関連して、挿入図は極力割愛した。

また、著者の力量が不足しているから、内容記述に際して、カナ混じり文を現代文にする作業を少なくし、おおむねそのまま記述・紹介した。そのとき使用する漢字は、なるべく現行の日本語で一般的な字体を用い、異体字等の多くは書き換えた。そして、勝手ながら句読点を添えることもした。

最後に、「支那」「蕃人」「土人」などといった、現在では差別的とされる国名、地域名、用語について、本書では引用も含めそのまま使用しているが、それは分かりやすさを第一とした結果であって、差別を助長しようという意図は全くないことを申し添えておく。

引用先については、煩わしいところもあるが、読者の今後の利用を第一にしたので、できるだけ詳細に記述したものである。

なお、参照・参考文献リストにある、アジア歴史センターに係る文書の引用について、「アジア歴史センター(JACAR)Ref.B111111111111」とするべきものであるが、「JACAR Ref.B111111111111」と簡略化した。なお、JACAR Ref.以下にある、レファレンスコードと各資料に振っている 12 桁のコードのうち、先頭 1 文字目のアルファベット、A が国立公文書館、B が外務省外交史料館、C が防衛省防衛研究所図書館、D が琉球大学附属図書館、E が滋賀大学経済経営研究所、F が北海道立図書館の資料を示している。

同様に「国立国会図書館<National Diet Library Japan>デジタルコレクション 111111111111」については「NDLJ 111111111111」とし、「国立公文書館<National Archives of Japan>デジタルアーカイブ 111111111111」については「NAJ 111111111111」と略表記した。